第 2 章　2022 年慢性透析患者の動態

1. 臨床背景

2022 年の患者調査票において，性別，年齢が記載されていた人数は 334,653 人であった．このうち男性は 222,930 人，女性は 111,723 人で，全体の平均年齢は 69.87 歳であった（**図 4，補足表 4**）．平均年齢は年々増加傾向を示していて（**図 5，補足表 5**），最も割合が高い年齢層は男女とも 70～74 歳であった．また 65 歳未満の患者数は 2012 年から減少し，70 歳未満の患者数は 2017 年から減少傾向である．つまり，わが国の慢性透析患者数の増加は，70 歳以上の患者数の増加によるものであることが分かる（**図 6，補足表 6**）．

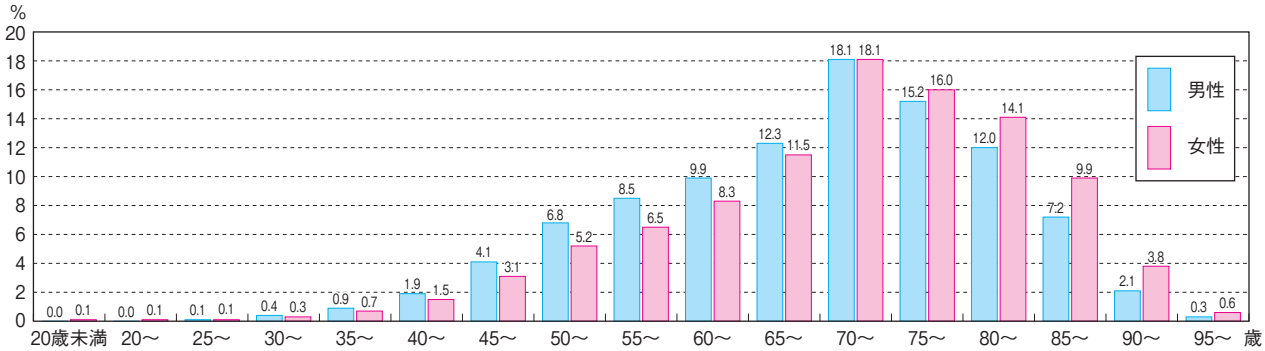

図 4　慢性透析患者　年齢と性別，2022　　（患者調査による集計）

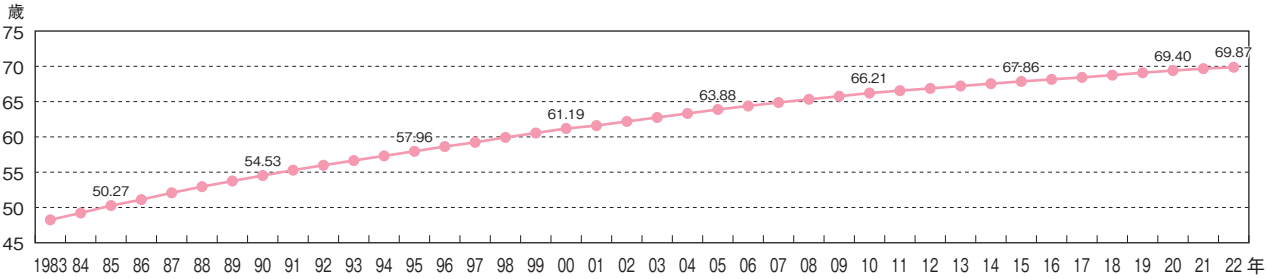

図 5　慢性透析患者　平均年齢の推移，1983-2022　　（患者調査による集計）

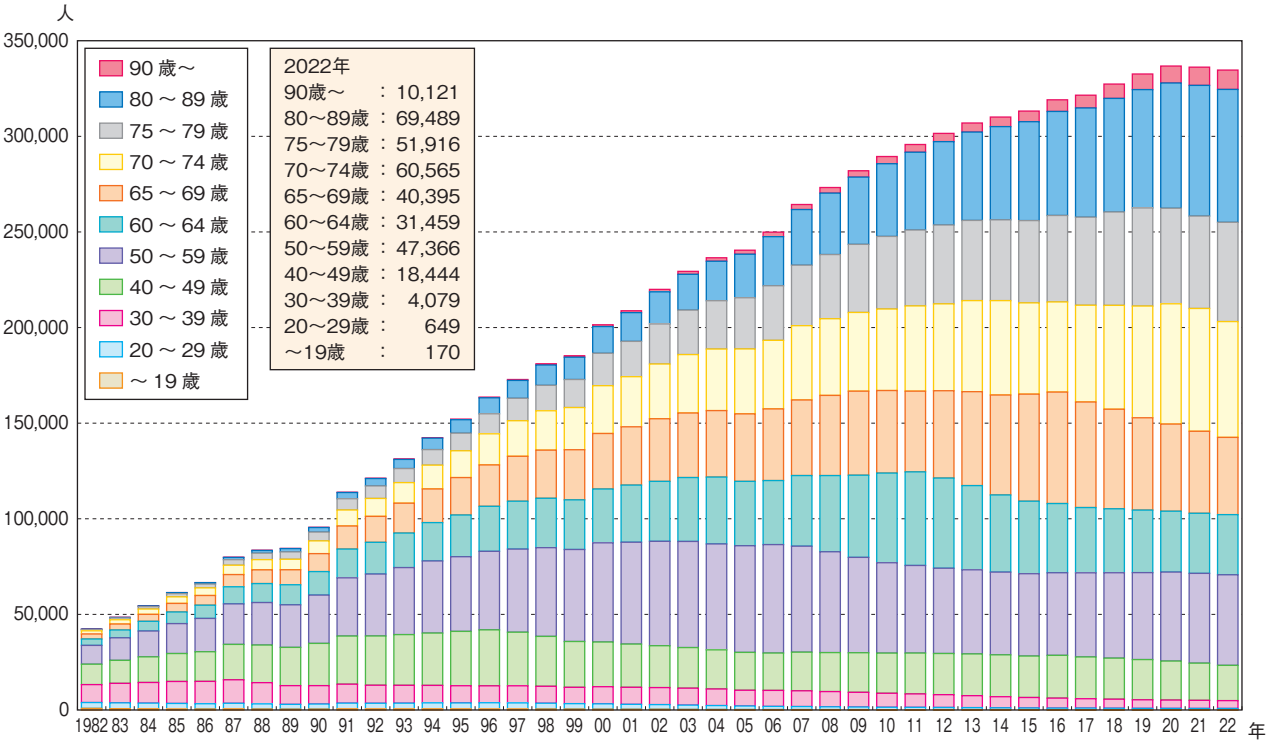

図 6　慢性透析患者　年齢分布の推移，1982-2022　　（患者調査による集計）

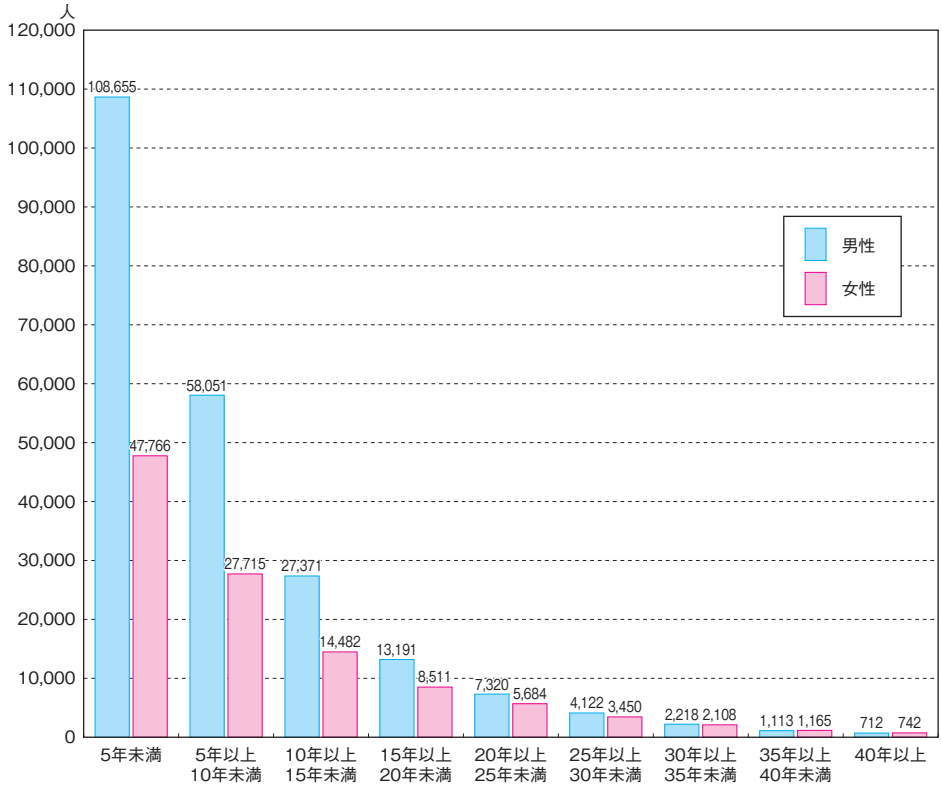

図 7　慢性透析患者　透析歴と性別，2022　（患者調査による集計）

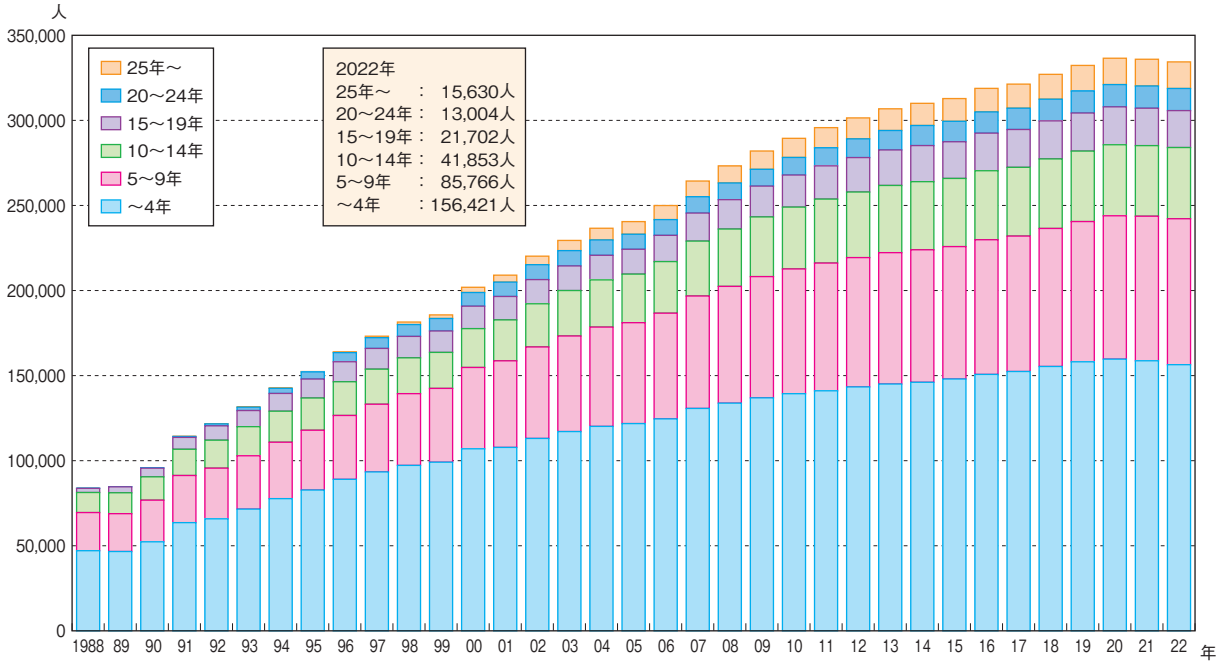

図 8　慢性透析患者　透析歴分布の推移，1988-2022　（患者調査による集計）

2022 年末時点の慢性透析患者の平均透析歴は男性 6.91 年，女性 8.48 年，全体で 7.43 年であった．透析歴 5 年未満が全体の 46.8％を占め，透析歴 20 年以上は 8.6％，30 年以上が 2.4％，40 年以上が 0.4％であった（**図 7**，**補足表 7**）．最長透析歴は 52 年 1 ヵ月であった．透析歴の長い患者は増加しており，10 年以上の透析歴を持つ患者が 27.6％に達している．1992 年末には 1％に満たなかった透析歴 20 年以上の患者は，2022 年末には 8.6％に達している（**図 8**，**補足表 8**）．

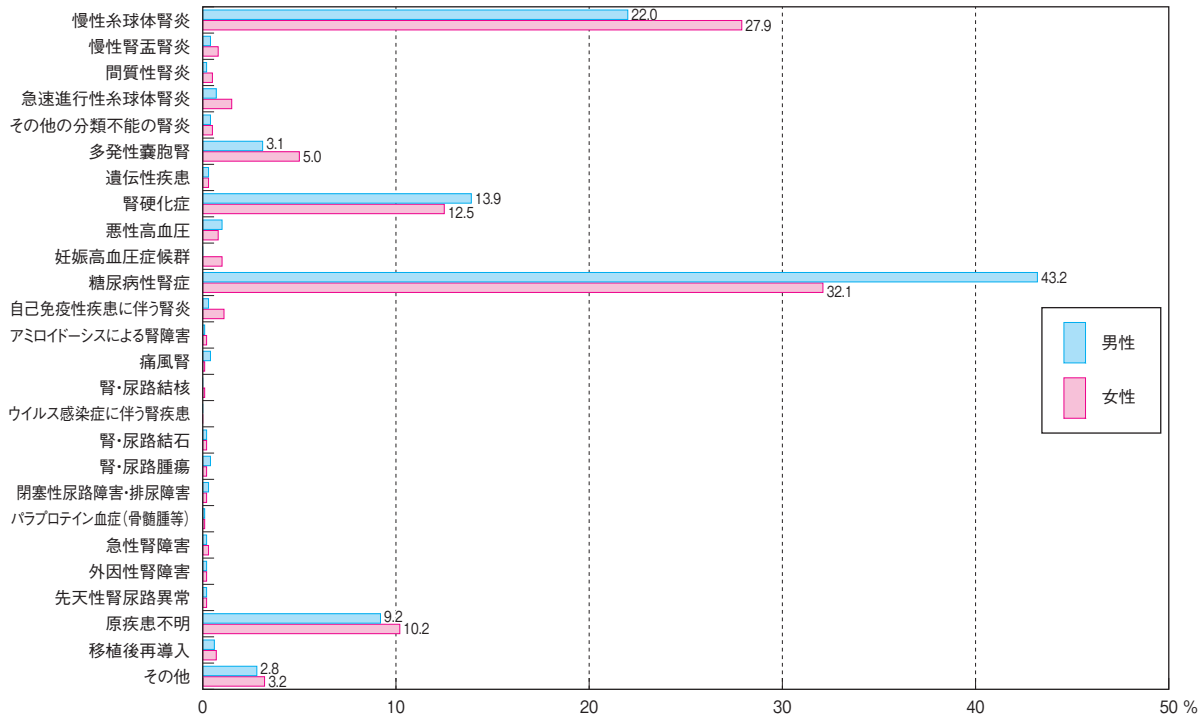

図 9　慢性透析患者　原疾患と性別，2022　　（患者調査による集計）

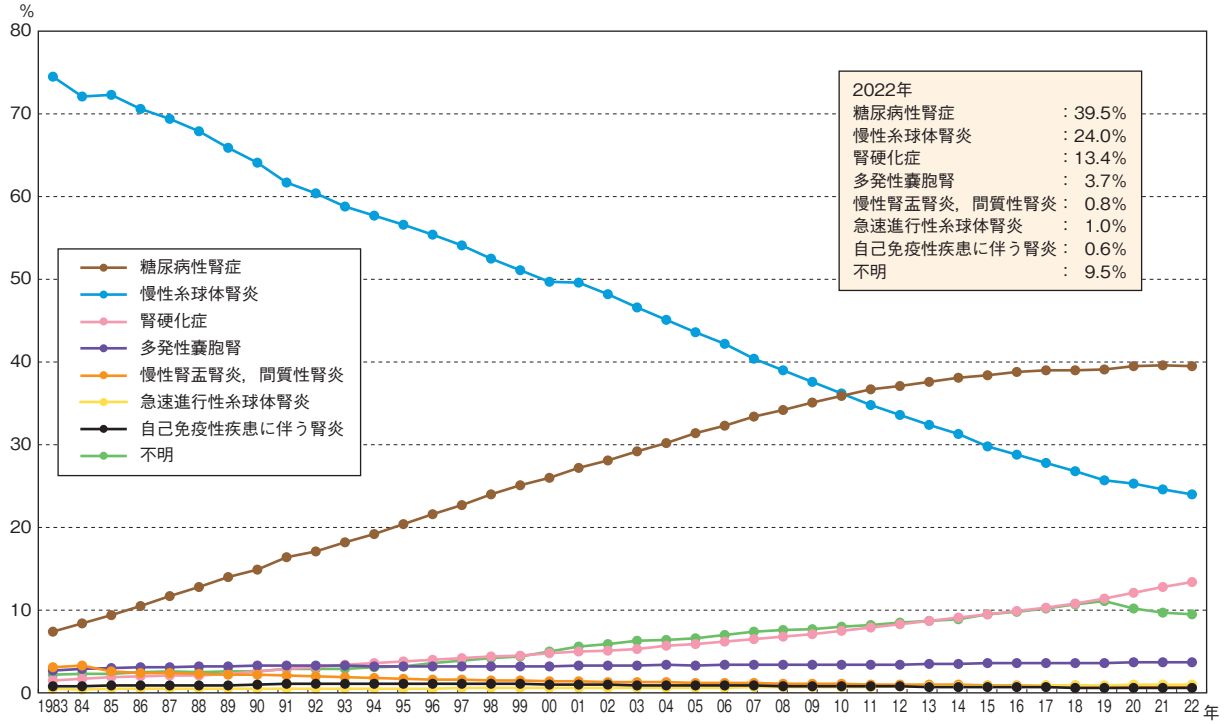

図 10　慢性透析患者　原疾患割合の推移，1983-2022　　（患者調査による集計）

2022 年末時点の慢性透析患者の原疾患で最も多いのは糖尿病性腎症の 39.5％で，次いで慢性糸球体腎炎が 24.0％，腎硬化症が 13.4％であった（**図 9，補足表 9**）．糖尿病性腎症の割合は，2011 年に慢性糸球体腎炎に代わって原疾患第 1 位になって以降も持続的に上昇しているが，近年は横ばいを推移している．慢性糸球体腎炎は直線的に減少し，腎硬化症は持続的に上昇している（**図 10，補足表 10**）．なお，原疾患コードは 2017 年末調査で一部変更しており注意が必要である．

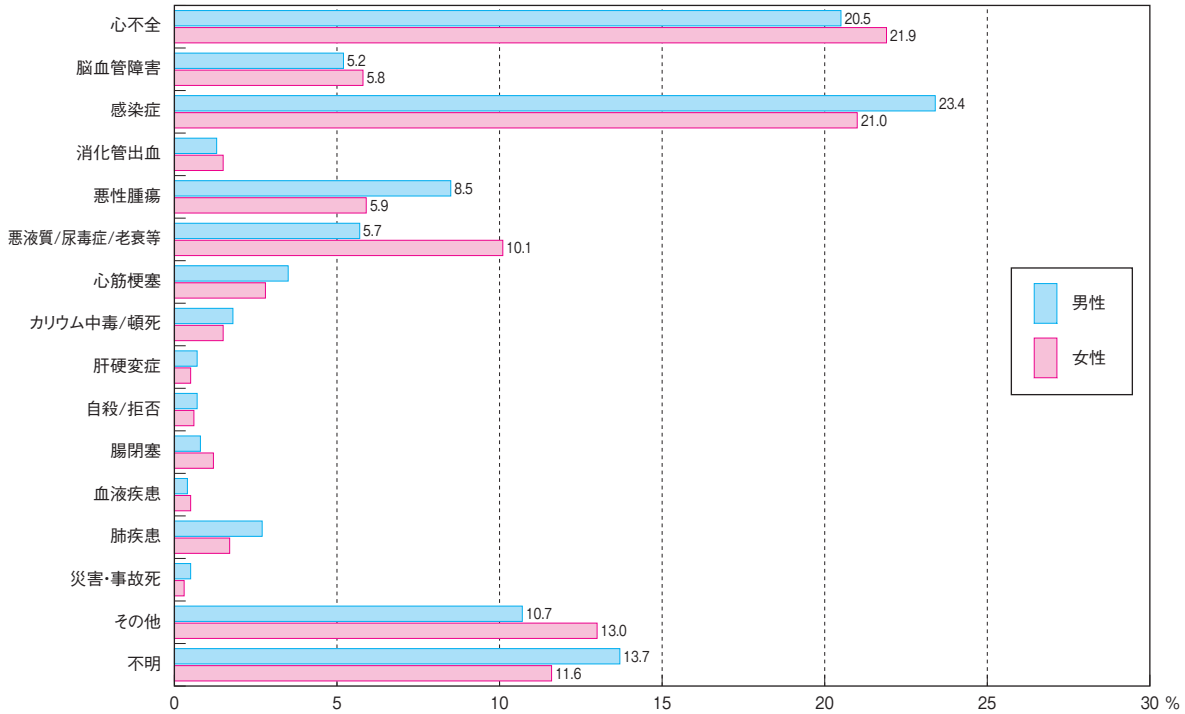

図 11　慢性透析患者　死亡原因と性別，2022　（患者調査による集計）

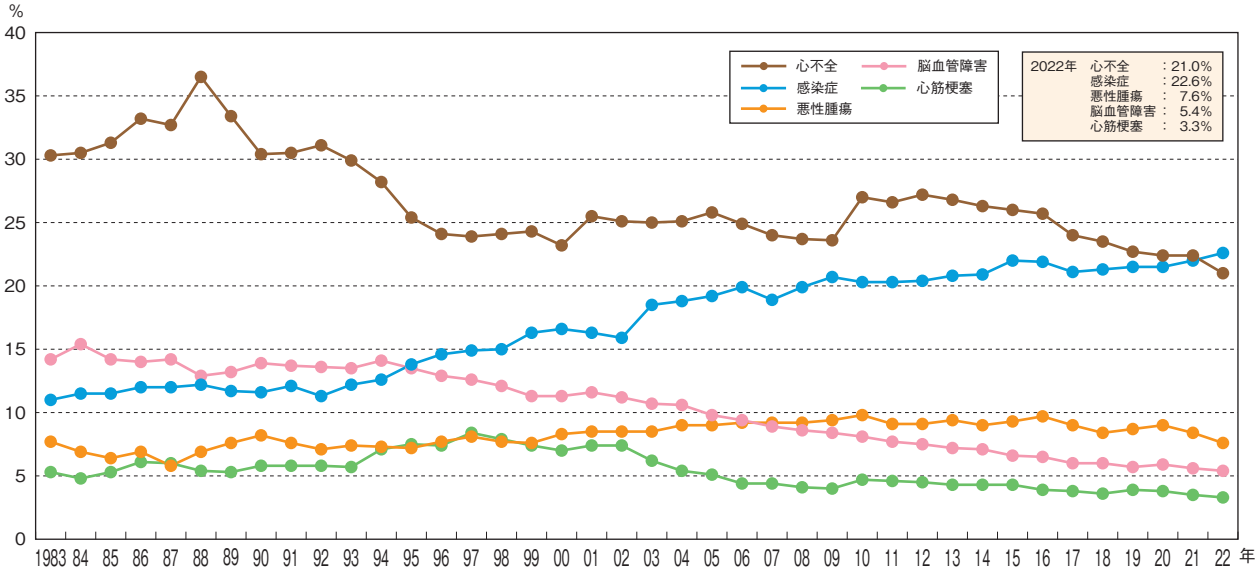

図 12　慢性透析患者　死亡原因割合の推移，1983-2022　（患者調査による集計）

2. 死亡原因

2022 年の施設調査票では，38,464 人の死亡が報告されていたが，患者調査票において死亡原因と性別が記載された患者数は 36,593 人であった．最も多い死亡原因は，2021 年は心不全の 22.4%であったが，2022 年は感染症が 22.6%に逆転した．多い順から感染症，心不全，悪性腫瘍，悪液質/尿毒症/老衰等，脳血管障害で，それぞれ全体の 22.6%，21.0%，7.6%，7.1%，5.4%であった．その他は全体の 11.5%であった．心不全，脳血管障害，心筋梗塞を併せた「心血管死」の割合は，29.6%であった（**図 11**，**補足表 11**）．

死亡原因の推移では，1983 年から心不全による死亡が最も多く，1995 年以降，25%前後で推移していたが 2013 年以降漸減傾向にある．一方，感染症による死亡は 1993 年以降徐々に増加傾向を示し，本年は 22.6%と初めて最も多い死亡原因となった．COVID-19 パンデミックが影響した可能性がある．脳血管障害は 1995 年以降漸減傾向にある．心筋梗塞による死亡も，1997 年の 8.4%をピークに漸減傾向である．悪性腫瘍死は 1987 年の 5.8%を底に少しずつ増加していたが，2004 年からは 9.0%前後を推移し,本年は 7.6%に減少した．前述した心血管死の割合は，1988 年には 54.8%であったが一貫して減少し，2022 年には 29.6%であった（**図 12**，**補足表 12**）．なお，本調査における死亡原因分類コードは，2003 年末，2010 年末，2017 年末調査の 3 回改訂されていることに注意が必要である[9]．

3. 粗死亡率

施設調査における患者動態から年間粗死亡率を計算した.

粗死亡率＝｛死亡数/(前年患者数＋調査年患者数）÷2｝×100（%）

粗死亡率は，アンケート回収率が低かった 1989 年の 7.9%が最低値を示したが，おおむね 9～10%で推移し，2022 年末は 11.0%に達した（図 13，補足表 13）.

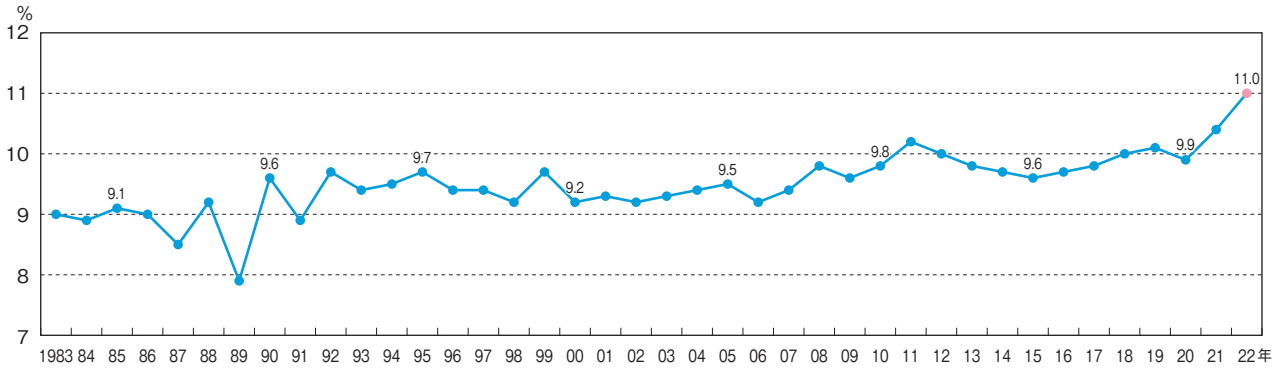

図 13　慢性透析患者　粗死亡率の推移，1983-2022　　（施設調査による集計）